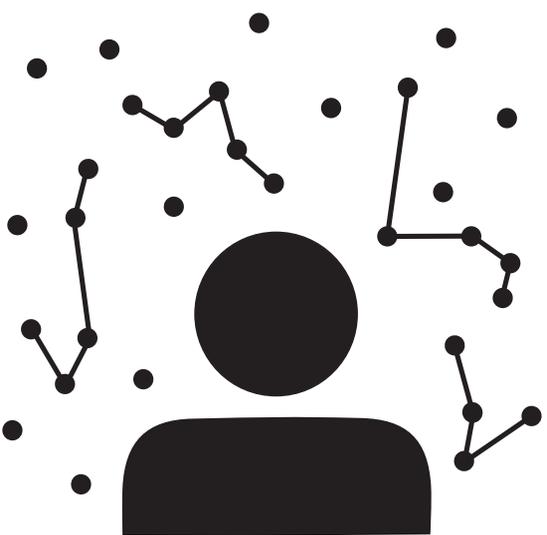


来るべき世界

The Shape of the Things to Come :
Technology, AI and Human



科学技術、AIと人間性

青山学院大学シンギュラリティ研究所主催

「来るべき世界：科学技術、AIと人間性」

開催のお知らせ

「来るべき世界：科学技術、AIと人間性」は、人類が技術的特異点を迎えるにあたって、これからの社会や人間のあるべき形を考え、新たな未来を創造するためのプロジェクトです。現代美術のフィールドで活躍する作家たちによる展覧会と連動して、様々な分野の専門家たちによる領域を横断した講演やトークイベントで未来の姿を予測、検証し、きたるべき世界に備えることを目的としたイベントです。

すべての時代において、人々はテクノロジーと、それが生活にもたらす効果について考えを巡らせてきました。H・G・ウェルズのスペキュレティヴ・フィクションの名著『来るべき世界 The Shape of Things to Come』（1933年）では、かれは執筆当時から2106年に起こることまでを描いています。ウェルズは様々な事象を予言し、そのいくつか、たとえば大量殺戮兵器の開発などは実現し、また、端的にいえば世界共通言語としての英語の標準化などは未だ実現していません。

2019年はウェルズの予言書では中間地点になり、未来を再評価するのにふさわしい時期といえましょう。ウェルズの予言はおもに社会や政治全体の現象を扱っていましたが、今回のイベントでは、一個人を社会や政治の構造の基本構成とみることに留意し、個人とテクノロジー、各々がそれを頼りとしながら、創造的表現にも用いるテクノロジーとの関係について注目します。

現在のテクニカル・ツールは新しいものの芸術的な表現を可能にしています。それらは展覧会においても確認できるでしょう。さらには、人工知能やAIアプリケーションの発達、アーティストに新たな種類の自主性を作品に与え、新たな芸術概念の探求へと導いています。しかし、とどのつまり、AIとAI関連ツールの存在は、人間性と、「自然」と「人工」の正しい関係性に対する疑問を投げかけてきます。本展ではその領域に佇むものたちをまとめ、対話を生み出していきます。

会期中の毎週末には、シンギュラリティ研究所の研究者による、様々な分野、領域を横断する連続トークイベントを行います。テクノロジーと創造性との交わりに加えて、AI時代に我々はいかに生きるかを考えていきます。みなさまのご来校をお待ちしております。

開催概要

● 出展作家

国内外で活躍する8作家10名の現代美術作家が参加いたします。それぞれの略歴は下記につづきます。

エキソニモ

岡本光博

硬軟

小林健太

中村洋子

ノガミカツキ+渡井大己

藤倉麻子

Susan Ploetz

● 会期

2019年11月16日(土)～12月15日(日) (30日間)

最終日をのぞく会期中の日曜日、祝日は展休日といたします。

● 開催時間

11:00～17:00

● 会場

青山学院大学 青山キャンパス

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4丁目4-25

電話：03-3400-1204 (青山学院大学研究推進部 代表)

● ディレクター

エリン・マクレディ教授 (青山学院大学シンギュラリティ研究所所長)

● 展覧会コーディネーター

癸生川 栄

● 宣伝美術

乗田菜々美

● オープニングイベント

参加作家を交えて、作品と展覧会を解説するトークイベントを開催日前日に開催いたします。

日時：11月15日(金) 17:00～

会場：6号館1階教室

● 連続トークイベント

展覧会と並行して、最先端社会をめぐる問題点を精査しその解決にむけて探求する研究者とゲストによるトークイベントを連続開催いたします。申込方法や会場の教室、追加のイベントにつきましてはシンギュラリティ研究所のウェブサイト (<http://www.agusi.jp/>) でご確認ください。

AI時代の「自律性」[社会情報学会の定例研究会(理論部門)との共催]

11月22日(金) 18:30～20:00

谷口忠大(立命館大学教授) / ドミニク・チェン(早稲田大学准教授) / 河島茂生(研究員)

EUのAI方針

11月29日(金) 18:30～20:00

Karl-Friedrich Lenz(研究員)

実践 ビジュアルプログラミング(仮)

11月30日(土) 11:00～12:30

吉田葵(研究員)

AIと創作

11月30日(土) 15:05～16:35

久保田裕(コンピュータソフトウェア著作権協会専務理事・事務局長) /
長尾玲子(日本文藝家協会) / 河島茂生(研究員)

AIと地図

12月6日(金) 18:30～20:00

北原格(筑波大学教授) / 古橋大地(研究員)

学生企画：最先端を駆け抜ける！

12月7日(土) 13:20分～

招待企業：資生堂等 ※ライトニングトークあり

AI倫理

12月13日(金) 18:30～20:00

西垣通(東京大学名誉教授) / 河島茂生(研究員)

● ウェブサイト

青山学院大学シンギュラリティ研究所 www.agusi.jp

● 協力

WAITINGROOM

eitoeiko

● お問い合わせ

青山学院大学研究推進課

メールアドレス：agu-tkk@aoyamagakuin.jp

展示作家略歴

エキソニモ

千房けん輔と赤岩やえにより1996年東京にて結成されたアート・ユニット。現在はニューヨークを拠点に活動する。インターネット黎明期よりネットそのものを題材に作品を制作・発表。ハッキング的な手法を得意とし、2000年以降は実空間での展示やパフォーマンスも行う。例えば Google のトップページを「インターネットの風景画」としてピクセル細部までアクリル絵の具で再現した《Natural Process》など、デジタル空間と物理空間をユーモラスに接続する手法に際立ったセンスを見せる。2012年より10数名のアーティスト等からなるコミュニティ「IDPW（アイパス）」を組織し、ネット上の商習慣を比喩的に実空間へと侵入させた「インターネットヤミ市」を開催、現在までに世界20以上の都市へと広がっている。主な参加展覧会に「あいちトリエンナーレ 2019」、「ARTPORT: SUNRISE/SUNSET」（ホイットニー美術館 2019）、「ハロー・ワールド ポスト・ヒューマン時代に向けて」（水戸芸術館現代美術ギャラリー 2018）、第4回恵比寿映像祭「映像のフィジカル」（東京都写真美術館 2012）、「世界制作の方法」（国立国際美術館 2011）など。受賞多数。

www.exonemo.com



出品作品

Click and Hold 2018

© exonemo, Courtesy of the artist and WAITINGROOM

岡本光博

1968年京都生まれ。1994年滋賀大学大学院教育学修了後、渡米。アート・スチューデント・リーグ・オブ・ニューヨークにて学ぶ。帰国後に CCA 北九州リサーチ・アーティスト・プログラムに参加。その後インド、ドイツ、スペインのアーティスト・イン・レジデンス・プログラムに参加。沖縄、台湾滞在を経て、2012年京都にアーティスト・ラン・ギャラリー KUNST ARZT をオープン。近年の主な個展に「GEIST」（ギャラリーターンアラウンド 仙台 2018）、「THE ドザえもん展 TOKYO 2017」（eitoeiko 2017）、「UFO」（同 2018）、参加展覧会に「福岡城まるごとミュージアム」（福岡 2018）、「ラブラブショー2」（青森県立美術館 2017）など。2019年は「日本ポーランド国交樹立100周年記念ポーランド芸術祭 2019 セレブレーションー日本ポーランド現代芸術展」（ロームシアター京都、スターリ・ブローヴァル トラフォ）、「あいちトリエンナーレ 2019 <表現の不自由展・その後>」、「美少女の美術史」（北師美術館 台湾）に出展。

www.okamotomitsuhiro.com



出品作品

トラロープ 2019

撮影：来田猛 © 京都芸術センター

硬軟

千葉大二郎（1992年東京生まれ）によって発足したアートユニット。現在は一人で活動する。2014年多摩美術大学卒業。2016年東京芸術大学大学院美術研究科修了。共に専攻は日本画。個展「トリプルネットワークゲル」（eitoeiko 2015）に出品した作品「絵を描くビッグフット」が月刊ムーPLUSで紹介される。つづく「トリプルショートハンド」（同 2017）で速記に注目し、日本速記協会発行による「日本の速記」表紙画を手がけるようになる。月刊ギャラリーに「硬軟の5年間」が掲載（2018年11月号）される。2019年の個展に「期待される人間像」。参加展覧会に「BARRACKOUT」（2016-17）、「いわきまちなかアートフェスティバル玄玄天」（2017）、「おだわら城町アートプロジェクト」（2017）、「漂白する私性 漂泊する詩性」（横浜市民ギャラリー 2018）、「マルチシャッター」（EUKARYOTE 2018）、「META 日本画のワイルドカード」（千葉大二郎として参加 神奈川県民ホールギャラリー 2019）など。



参考作品

「アテブラーズ」より 2018

小林健太

1992年神奈川県生まれ。東京と湘南を拠点に活動。「真を写す」とは何か、という問いとして写真を捉え、様々な試みの中からその輪郭を縁取っていく。主な個展に「Photographic Universe」(Fotografia Europea 2019 レッジオエミリア 2019)、「自動車昆虫論／美とはなにか」(G/P gallery 2017)、「#photo」(同 2016)。参加展覧会に「ハロー・ワールド ポスト・ヒューマン時代に向けて」(水戸芸術館 2018)、「GIVE ME YESTERDAY」(フォンドァツィオーネ・プラダ・ミラノ 2016)、「New Material」(ケースモア・カークビー サンフランシスコ 2016)など。主なコレクションに、サンフランシスコアジア美術館など。写真集に「Everything_1」(Newfave 2016)。

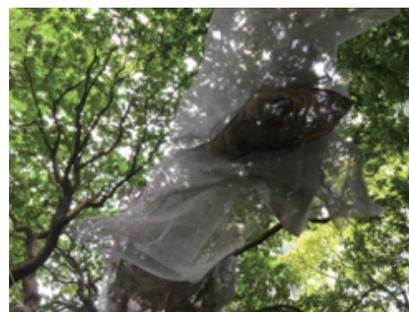
www.kentacobayashi.com



出品予定作品
個展「Rapid Eye Movement」(東京 2019)より
© Kenta Cobayashi

中村洋子

1950年石川生まれ。1971年東横学園女子短期大学(現東京都市大学)国語国文学科卒業。1972年同家政学科専攻科卒業。1976年中村錦平に出会い、造形を始める。陶芸から出発し、現在は屋外でのインスタレーションを制作する。野外展「雨引の里と彫刻」に2006年より2008、2011、2013、2015、2019と毎回参加。グループ展に「WOMAN POWER」(Hanjeon Art Center ソウル 2009)、モンゴル文化芸術大学でのスライドレクチャー(2012)、「生への言祝ぎ」(大分県美術館 2016)、「House on the sea」(加藤亮との二人展 トキ・アートスペース 2018)、コレクションに Fred Marer Collection (Scripps College 米国)、愛知県陶磁美術館(旧愛知県陶磁資料館)、慶熙大学校産業大学(韓国)、アルゼンチン近代美術館日本の家(アルゼンチン)、目黒区美術館、Soed Te ミュージアム(韓国)、二期倶楽部など。著作に『MESH/CLAY/FIRE—中村洋子のやきもの』(美術出版社 2001)。



出品作品
雲よ、来い。(部分) 2019
学内中庭に展示予定

ノガミカツキ+渡井大己

ノガミカツキ

1992年新潟生まれ。2015年武蔵野美術大学映像学科卒業。コンコーディア大学(モントリオール) Topological Media Lab メンバー。ベルリン芸術大学に留学しオラファー・エリアソンの Raumexperimente に所属する。2016年第19回文化庁メディア芸術祭エンターテインメント部門新人賞(group_inouのミュージックビデオ「EYE」)を制作。橋本麦との共同名義。2018年フォーブス・ジャパン「世界を変える30歳未満30人の日本人」に選出。FILE、WRO、Scopitone、International Festival Spainなどの国際展に参加。国内では六本木アートナイト(2014)、Future Catalysts Hakuodo×Ars Electronica、札幌国際芸術祭関連企画など数多くの展覧会に参加している。受賞多数。本展ではコラボレーターにメディアアーティストの渡井大己を迎え、SNSを素材にした作品「Monologues」を発表する。

www.katsukinogami.co



出品作品
Monologues 2019

渡井大己

1985年静岡県生まれ。メディアアーティスト、テクニカルディレクター。早稲田大学大学院文学研究科修了。テクニカルディレクターとしてグローバルブランドをはじめとしたファッションショー、インスタレーション、ライブ等、広告・エンタメ分野での演出や開発を多く手掛ける。アーティストとしてはプログラミングやデバイスを駆使し、テクノロジーがもたらす未来とオルタナティブな世界を具現化する作品群を制作。第18回文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品選出。Prix Ars Electronicaにて Honorary Mention(栄誉賞)を受賞。

藤倉麻子

1992年埼玉生まれ。2016年東京外国語大学南・西アジア課程ベルシア語専攻卒業。2018年東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修了。工業製品が自律運動を行う様子を描き出し、道具から道具性をはぎとり、日常において忘却される都市の存在を示す作品を制作している。第22回文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品選出。個展に「エマージェンシーズ! 035《群生地放送》」(ICC インターコミュニケーションセンター 2018)、「functional, primitive」(Ask?P 2018)。主な参加展覧会に「PHENOMENON:RGB 展」(ラフォーレミュージアム 2019)、「Artists in FAS 2018」(FAS 藤沢 2018)、「I.wall」展(ガーディアンガーデン 2018)、「MEC award 2018 入選作家展」(Skip シティ映像ミュージアム 2018)。上映に「TOKYO ANIMA! 2019」(国立新美術館 2019)、「ヤング・パースペクティブ2018」(イメージフォーラム) www.asakofujikura.tumblr.com



参考作品
「群生地放送」より 2018

Susan Ploetz

スーザン・プレッツは進化型 LARP と身体的実践を用いて、具体化したシミュレーションと協働する世界の構築を通じたアーティスティック・リサーチを行っている。彼女の作品は多層的な法則と感覚を持ち、身体と精神をつなぐインタラクション、インターフェイスとテクノロジーとしての想像力、知覚の拡大、手続き上の表現と感情的な不調和の解放を扱っている。

プレッツはマルティン・グロピウス・パウでの Berliner Festspiele、ストローム・デン・ハーグ、ベルリン芸術大学、パーヴェイシブ・メディア・スタジオ(ブリストル)、Sophiensaele、ABC Art Fair、Dutch Art Institute、Saas-Fee Summer Institute of Arts、dOCUMENTA (13)、Portland Institute for Contemporary Artなどで作品を発表し、講演し、教鞭をとり、またパフォーマンスしている。

www.susanploetz.com



参考写真
Larping AI 実践風景

同時期開催イベント

①

青山学院大学ジェロントロジー研究所講演会
少子超高齢社会を支える革新的サイバニクス
人とテクノロジーが共生するテクノ・ピアサポート

講師：山海嘉之

筑波大学システム情報系教授、サイバニクス研究センター研究統括、CYBERDYNE（株）代表取締役社長／CEO。筑波大学サイバニクス研究センター長、内閣府 ImPACT：革新的研究開発推進プログラム プログラム・マネージャー、内閣府 FIRST：最先端サイバニクス研究プログラム研究統括、日本ロボット学会理事、行議員、欧文誌 Advanced Robotics 理事、委員長等を歴任。日本ロボット学会フェロー、計測自動制御学会フェロー、世界経済フォーラム Global Future Council（Production）、第四次産業革命センター（サンフランシスコ）センターパートナー。

日時：11月16日（土） 15:00～16:30

会場：青山学院大学青山キャンパス9号館4階940号室

※ 事前お申し込み

お問い合わせ：

ジェロントロジー研究所 Web サイト：

<http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/contact/>

主催：青山学院大学ジェロントロジー研究所

後援：青山学院大学シンギュラリティ研究所

②

講師：椿広計（統計数理研究所所長）

日時：12月14日（土） 午後

主催：青山学院大学情報メディアセンター